

課題解決力 Up!

「できることをどんどん増やそう」「力をあわせて楽しもう」

2 年目 ①データベースで広がるネットワーク

1. 目的・ねらい

目的

環境保全に取り組む民間団体（NGO・NPO 等）の課題解決力 Up! を目的とする。

「できることをどんどん増やそう」「力をあわせて楽しもう」を合言葉に、WEBの活用による資金調達や広報戦略、あるいは幅広い世代や地域の人々とのネットワーク構築など、課題解決につながる力を身につけます。

ねらい

1. 最新情報を知ると同時に、情報の獲得方法を知り、必要に応じて活用できるようになる
2. WEBの活用による、資金獲得スキーム構築やマーケティング戦略、広報戦略を学び、クラウドファンディングによる事業資金獲得やデータベース活用によるマーケティング・広報戦略につなげる
3. 幅広い世代や地域の人々とのネットワーク構築を学び、地域での活動がスムーズになる。異なる視点を持ち刺激しあえる仲間や研修終了後においても相談・連携できる仲間を得る。本研修の実施によって、受講者・講師・実地研修先・中間支援組織・行政等の間に新しいネットワークが生まれ、連携して課題解決にあたることができる。また、受講者は講座終了後も講師に自団体の課題について講座運営者を通じて相談することができる。
4. 環境問題についてつながりを整理し、身近な問題として具体的な行動をおこす。

2. 実施概要

（1）開催日時および（2）開催場所

第 1 日	5 月 15 日（月）	大阪 NPO センターセミナールーム
第 2 日	5 月 16 日（火）	大阪 NPO センターセミナールーム
第 3 日	6 月 15 日（木）	大阪府箕面市にて実地研修
第 4 日	7 月 14 日（金）	大阪 NPO センターセミナールーム
第 5 日	7 月 25 日（火）	大阪 NPO センターセミナールーム

(3) 各回参加人数

第1日	5月15日(月)	13名	
第2日	5月16日(火)	13名	
第3日	6月15日(木)	13名	
第4日	7月14日(金)	13名	オブザーバー1名
第5日	7月25日(火)	12名	

(4) プログラム・当日の様子

第1日

■プログラム■

1日目：5月15日(月)	
10:00~10:20	研修目的の説明・地球環境基金ご紹介 ファシリテーター：井上明子(イー・ビーイング)
10:20~10:40	研修全体スケジュール及び当日スケジュール紹介、各種案内 アイスブレイク 自己紹介
	ファシリテーター：井上明子(イー・ビーイング) ファシリテーター：井上明子(イー・ビーイング)
10:45~12:00	講義 課題解決力アップのために できることをどんどん増やそう 力を合わせて楽しもう 講師：久 隆浩氏(近畿大学総合社会学部教授)
13:00 ~15:00	データベース概論・事例紹介 「データベース活用の目的とねらい」
	講師：小堀 悠氏(NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長)
15:00 ~16:40	講義と意見交換 「会員・支援者をデータベースで管理」
	講師：小堀 悠氏(NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長)
16:40 ~17:00	ふりかえりとアンケート記入
	ファシリテーター：井上明子(イー・ビーイング)

■当日の様子■

講義 課題解決力アップのために できることをどんどん増やそう
力を合わせて楽しもう (久 隆浩氏)



- ・ データベース活用についての概論の講義
 1. データベースを活用したマーケティング
 2. データベースの構築と活用
 3. 組織経営の視点 そもそもマネジメントって？

データベースをツールとして活用することで、団体の課題解決力を高めることができる。
マーケティングの視点から考えると、データをマスとしてみないで、ターゲットを明確化することが大切。

ビジョン（目的・目標）を明確にし、経営戦略をもって組織経営にあたるべし。

- ・ 講義により参加者は、研修の目的を理解すると同時に、データベースの活用方法を団体内で明確にすることの重要性を認識した。

データベース概論・事例紹介「データベース活用の目的とねらい」
実習と意見交換「会員・支持者をデータベースで管理」(小堀 悠氏)



- ・ データベース（本研修では salesforce を使用）とは、ばらばらに存在するデータを一箇所にまとめて管理・活用するためのプラットフォーム
- ・ 寄付・会員管理、イベント管理・業務管理などができる

- ・ポイントは目的の明確化と全員で使うこと
- ・参加者は、豊富な事例紹介を含めた、データベースについての説明と、基本操作、会員・寄付管理の実習で、salesforce の概要がつかめたので、明日以降の実習や団体に合わせた活用方法の検討に意欲を見せていた。

第2日

■プログラム■

2日目：5月16日（火）	
10:00~12:00	実習と意見交換 「参加者をデータベースで管理」 講師：小堀 悠氏（NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長）
13:00 ~15:40	実習と意見交換 「団体の業務に合わせたデータベースの活用」 講師：小堀 悠氏（NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長）
15:40 ~16:40	ワークショップ 「自団体の課題の把握と、取組むテーマの検討」 講師：小堀 悠氏（NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長）
16:40 ~17:00	ふりかえりと第3日実地研修のご案内、アンケート記入 ファシリテーター：井上明子（イー・ビーイング）

■当日の様子■

実習と意見交換 「参加者をデータベースで管理」（小堀 悠氏）



- ・イベントの参加者管理とは、受付や参加費の徴収だけでなく、お礼やフォローのメールを当日中に自動で送るなども可能。
- ・イベントの参加者管理（キャンペーン機能）によって、作業時間の短縮ができ、団体内でのリアルタイムの情報共有が可能なこと、各支援者に合わせたきめ細やかな対応ができることを、参加者は実習により確認していた。

実習と意見交換 「団体の業務に合わせたデータベースの活用」
ワークショップ 「自団体の課題の把握と、取り組むテーマの検討」



- ・カスタムオブジェクトで団体の業務に合わせた情報のテーブルの作成が可能
- ・レコードタイプを使用すると、管理したい項目が複数ある場合に、関連付けてすべてを管理することができる。
- ・データベースの概要を把握したところで、各団体の課題の把握と取り組むテーマ設定を行い、第3日までのアクションプランを作成した。
- ・参加者は説明+実践によって、理解を深めながら進めることができたので、研修中に各団体に合わせたデータベース構築を行うことに積極的な姿勢を見せていた。

第3日

■プログラム■

2日目：6月15日（木）	
10:00～12:00	実地研修 大阪府箕面市のNPO法人あっとすくーるにて データベース活用体験の共有 講師：渡 剛氏（NPO 法人あっとすくーる 代表）
13:00～16:40	実地研修の振り返り 実習と意見交換 「データベース活用実習（データ移行・環境設定等）」 講師：小堀 悠氏（NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長）
16:40～17:00	ふりかえりと第4日研修のご案内、アンケート記入 ファシリテーター：井上明子（イー・ビーイング）

■当日の様子■

実地研修 データベース活用体験の共有（渡 剛氏）



- ・あっとすくーるは経済的困難を抱える家庭の子どもたちのための学習塾で、通ってくる子どもの情報を整理するためにデータベースを活用している。

- ・ 試行錯誤の末に、紙とデータの組み合わせで日常的に使っている。日々の記録（戦闘レベル）は紙に記入、戦略を立てる際にデータベース活用する。
- ・ 内容は子どもの情報、寄付者管理、講師の大学生の管理、名刺情報（入力のみ）に限っている。団体に合った項目を選び、必要ない項目は捨てる勇気が必要。
- ・ 実際に活用している団体による具体的な事例紹介であったため、参加者から積極的な質問が寄せられた。
- ・ また、項目の取捨選択の重要性を再確認できたという意見が相次いだ。

実習と意見交換 「データベース活用実習（データ移行・環境設定等）」（小堀 悠氏）



- ・ 2日目以降の進捗状況として、団体内の課題分析などの報告
- ・ データ移行のための環境設定の実習
- ・ 団体内での項目選択等についての総意の形成
- ・ 4日目までのアクションプランの作成と発表。
- ・ 質問や相談にわかりやすく答えていただける講師がついているので、参加者は自団体の状況整理やデータ移行準備をスピーディーに進めることができた。
- ・ 参加者は今後の団体内での活用にむけて、成果を出せるよう積極的に取り組むという意識を表明していた。

第4日

■プログラム■

4日目：7月14日（金）	
10:00～10:10	アドバイザーへの自己紹介とアドバイザーよりのごあいさつ アドバイザー 五井瀧利明氏（NPO 法人 CR ファクトリー事業部長）
10:10～12:00	ワークショップ 「データベースの活用に挑戦（データ移行、データ出力、団体に応じた画面レイアウトの設定、分析などの設定）」① 講師：小堀 悠氏（NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長） サブ講師：佐々木詠美氏（ロジカル・アーツ株式会社）
13:00～15:40	ワークショップ 「データベースの活用に挑戦（データ移行、データ出力、団体に応じた画面レイアウトの設定、分析などの設定）」② 講師：小堀 悠氏（NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長） サブ講師：佐々木詠美氏（ロジカル・アーツ株式会社）
15:40～16:40	講義と意見交換 「ぶれない思い、振り回されない気持ち」 団体ワーク&発表 講師：小堀 悠氏（NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長）
16:40～17:00	ふりかえりと最終日のご案内、アンケート記入 ファシリテーター：井上明子（イー・ビーイング）

■当日の様子■

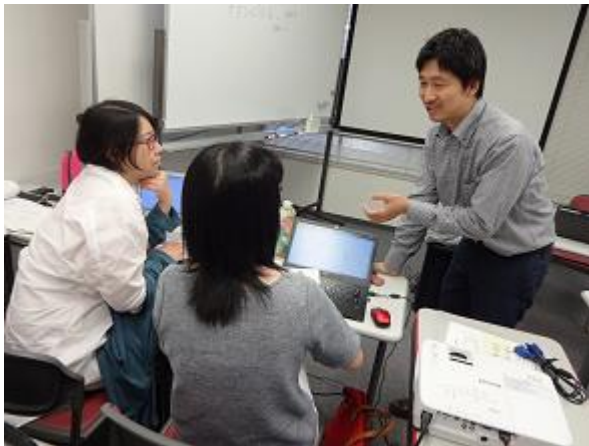
ごあいさつ CR ファクトリー 五井瀧利明氏



ワークショップ 「データベースの活用に挑戦（データ移行、データ出力、団体に応じた画面レイアウトの設定、分析などの設定）」①②（小堀 悠氏、佐々木詠美氏）



- ・各団体から3日目以降の進捗状況と課題分析などの報告
- ・データベース活用に向けて団体ごとのグループワーク



- ・各団体の課題や、質問に対し2名の講師が具体的にアドバイスを行う
- ・2名の講師が質問や相談に具体的なアドバイスするので、参加者は自団体の課題解決やデータ移行をスピーディーに進めることができた。
- ・研修も終盤にさしかかり、「やっといろいろな点が理解できてきた」という声もあり、参加者は団体としての成果を出せるよう意欲的に取り組んでいた。

講義と意見交換 「ぶれない思い、振り回されない気持ち」
団体ワーク&発表



- ・ 挑戦中のデータベース活用について自団体のミッションに立ち返って検討し、課題の整理をおこない、今後のアクションプランを検討する
- ・ 最終日までのプランのみならず、3 ヶ月後の目標、長期展望も視野にいれた計画作成とし、進捗管理の担当者も決める



- ・ 団体ごとにプランを発表
- ・ 一日の研修を経て、データベース活用についてのギアが上がった様子の参加者が多く、最終日までの具体的な目標が定まり、目標達成に意欲を見せていた。

第5日

■プログラム■

5日目：7月25日（火）	
10:00～10:10	地球環境基金からのごあいさつとスケジュール・資料確認等 地球環境基金 西岡玲子氏
10:10～12:00	ワークショップ「環境 NPO のデータベース導入または経過検証」① 講師：小堀 悠氏（NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長） サブ講師：佐々木詠美氏（ロジカル・アーツ株式会社）
13:00～15:00	ワークショップ「環境 NPO のデータベース導入または経過検証」② 講師：小堀 悠氏（NPO 法人 NPO サポートセンター事務局長） サブ講師：佐々木詠美氏（ロジカル・アーツ株式会社）
15:00～16:00	成果報告・意見交換 完成または構築中のデータベースについて、 今後の団体内での活用計画を発表 アドバイザー：久 隆浩氏（近畿大学教授） 施 治安氏（“大阪を変える 100 人会議” 名誉顧問）
16:00～16:40	まとめの講義「生存可能社会のために～環境 NPO の役割」 講師：加藤 悟氏（京都経済短期大学学長）
16:40～17:00	ふりかえりと最終日のご案内、アンケート記入 ファシリテーター：井上明子（イー・ビーイング）

■当日の様子■

ごあいさつ 地球環境基金 西岡玲子氏



ワークショップ 「環境 NPO のデータベース導入または経過検証」①②（小堀 悠氏、佐々木詠美氏）



- ・テキストをふりかえって補足説明
- ・各団体から 4 日目以降の進捗状況と課題分析などの報告
- ・各団体の課題や、質問に対し 2 名の講師が具体的にアドバイスを行う



- ・各団体の課題や、質問に対し 2 名の講師が具体的にアドバイスを行う
- ・テキストの補足説明によりデータベースの管理者機能について受講生の理解が深まった
- ・参加者は自団体のデータ移行についての疑問や導入の際の課題について、講師にアドバイスを求め、午後の成果発表に向けて意欲的にワークを進めていた。
- ・研修最終日とあって「何とか今日中にまとめあげるぞ！」という気迫に満ちた約 4 時間となった。

成果報告・意見交換 完成または構築中のデータベースについて、今後の団体内での活用計画を発表（久 隆浩氏 施 治安氏）



- ・研修成果として、データベース導入状況、団体の課題とその解決について、今後の活用計画について、団体ごとに発表
- ・3ヶ月後の目標、長期展望を含めた計画発表が続き、参加者は本研修の成果を活かした活動に意欲を表明していた。

まとめの講義「生存可能社会のために～環境 NPO の役割」
（加藤 悟氏）



- ・社会の現状の分析（経済側面、社会保障の限界、高齢化）から考えて、今後は NPO や市民が社会を支えていく時代であること
- ・シェアリングエコノミーが必然として普及してきたこと
- ・環境 NPO もデータベースはじめ IT で管理できる部分は活用したうえで、事業を展開し、自分たちで自分たちの経済を回す覚悟が必要
- ・環境 NPO の役割について、新しい視点での講義に、参加者は熱心に耳を傾けていた。
- ・今、NPO などの存在感が高まっていることは社会の必然であることがわかった、という声も上がった。

■ヒアリング・アドバイス■

<p>実践期間中の課題等</p>	<p>研修日ごとに、次回までのアクションプランを作成 第1日 インプットした研修内容の整理・復習 第2日 団体ごとに課題を設定し実行する 例) 申込フォーム作成、入力項目の整理、 寄付者のデータ移行 etc 第3日 団体ごとに課題を設定し実行する 例) 団体内で決めた共通項目をインポートできる よう準備する、自団体のデモバージョンを作 成 etc 第4日 最終日までの目標とスケジュール、担当者などを 決めて、データベース導入を進める 成果報告の資料作成</p>
<p>ヒアリング・アドバイスの手法</p>	<p>メール、電話にて 各回の研修開催後に参加団体のアクションプランの共有 と各団体の課題についての質問受付の連絡、次回研修前 に進捗状況の確認と課題についての質問受付。 団体によっては、電話にて個別ヒアリングを実施</p>
<p>実施記録</p>	<p>第1回終了後～第2回まで ・参加団体のアクションプランの共有（提出物のスキャン データによる） ・進捗状況の確認、 第2回終了後～第3回まで ・参加団体のアクションプランの共有（提出物のスキャン データによる） ・進捗状況の確認 ・参加団体よりの質問事項を講師に伝え、回答・アドバイ スを団体に連絡 第3回終了後～第4回まで ・参加団体のアクションプランの共有（提出物のスキャン データによる） ・第4回の研修日までの各団体の目標とスケジュールの作 成フォームを送信し、返信していただく ・返信内容を講師と共有する ・参加団体よりの質問事項を講師に伝え、回答・アドバイ スを団体に連絡</p>

	<p>第4回終了後～第5回まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加団体のアクションプランの共有（提出物のスキャンデータによる） ・研修最終日まで、および半年後までの各団体の目標とスケジュールの作成フォームを送信し、返信していただく ・返信内容を講師と共有する ・参加団体よりの質問事項を講師に伝え、回答・アドバイスを団体に連絡
--	--

3. 受講生等の声

第1日

- ・研修の全体像がつかめた
- ・salesforceは難しいイメージがあったが、事例を含めたわかりやすい説明が聴けてよかった
- ・具体的に導入する手順を早く知りたいと思った

第2日

- ・2日間の研修で、salesforceがパッケージとしてできあがっているうえに、いろいろとカスタマイズできるとわかって便利なツールなので、自団体に最適な形で使えるようにしたい
- ・日々の業務で「データベースを使えばもっといろいろなことができるのでは？」と思っていたので、具体的なとっかかりができてよかった。自団体での活用という目標が達成できるよう頑張ろうと思う。

第3日

- ・(実地研修で)とても具体的にsalesforceの実用方法を知ることができた。
- ・(実地研修先では)データ情報を割り切って使用されていたのが潔くて印象的で参考になった。
- ・午後に団体での作業の時間が少しずつ進めることができほっとした。
- ・先生に質問する時間をたくさんいただいたので、少し不安が解消された。

第4日

- ・毎回研修ごとに、何を目的にして目標をぶれずにデータベース構築していくのかを考えさせられます。最終回に向けて何らかの形で成果を残せるようにしたい。
- ・さまざまなデータベースの活用方法や可能性が見えてきました。

第5日

- ・研修を通じて長年気になっていて取り掛かりたいと考えていたデータベース構築のきっかけをつくることができ、自団体の課題が明確になりました。
- ・とても有意義な研修だったと思います。道のりはまだ長いですが、データベース完成にむけてがんばりたい。
- ・各団体の取り組みを聞き、自団体の問題も明確化できたので、この研修で得た活用計画通りに実行できるように頑張っていきます。

4. 実地研修受け入れ先の指導者の声

NPO 法人あっとすくーるでは、一般的なデータベース活用をしているわけではありません。経済的困難な過程の中高生対象塾ですが、月謝の管理や団体への寄付管理をしていません。

一番活用しているのは、塾の生徒の状況把握と整理です。指導役の大学生もその日によって担当が変わる場合があるので、生徒ごとに、状況や気づいたことを全てデータベース化し、団体内でのミーティングや生徒・保護者との面談に活用しています。

このような活用について紹介した際に、「データベースで自団体が何をしたいかをはっきりさせることが重要だと知った」「月謝や寄付者管理をしていないと聞いてびっくりしたが、データベースでできることをすべて取り入れるのではなく、捨てる勇気をもって、自団体に必要なことを選ぶ大切さを学んだ」などの感想・意見をいただき、すこしでも研修のお役に立てたかと思っています。

5. 考察・今後の課題

研修全体として

今回の研修では、データベース活用による各団体の課題解決力 Up! を目指していました。

1. 各団体の課題の抽出とデータベースによってどのように解決したいのかの明確化
2. データベース導入のためのインプット
 - ・データベースでどのようなことができるのか
 - ・データベース構築に必要な各団体のデータの整理
 - ・提供されるデータベースのフォーマットのカスタマイズ など
3. ひとつおりのデータベースについてのインプットを終えて、団体内でのデータベース構築についての意識の共有（場合によっては理事会や代表者による決裁）各団体のデータベースのフォーム作成。
4. データを移行し、活用を始める
5. データベース活用によって、どのように課題解決につながるのか、また今後の活用計画立案全体としては、上記ペースで研修を進めることができました。

研修中のフォローについて

毎回研修のたびに、メイン講師の小堀氏より

「研修を受けたらすぐに復習してください。何日か期間が空くとわからなくなるので」

「次回の研修までのスケジュールをできるだけ具体的に決めて進めるように」

「毎日の業務の中で、前もって一定の時間をとってデータベース構築に取り組むように」

などのアドバイスを受けましたので、運営側としてフォローに努めました。

- ・研修後すぐに次回までのアクションプランを共有して、自団体に戻ってから研修を意識していただく
- ・次回研修までの期間に、進捗状況をおたずねする
- ・研修後半では、スケジュールを意識したアクションプランのフォームを提供し、それを基に各団体のプランニング、および実践につなげていただく。

フォローについては、最終日に「事務局のフォローがあったので、最終日までこぎつけた」「事務局のフォローがよかった」などの感想をいただきましたので、お役に立ててよかったとうれしく思っています。

研修成果について

①データベース構築について

規模の小さい団体は、研修中にデータ移行まで行い早速活用できるようになりました。

規模が比較的大きい団体、これまでに扱っている名簿が複数存在する団体、協働関係にある、団体と共有の名簿がある団体については、団体内での課題の整理、活用方法の検討などに時間と手間がかかるため、実際のデータベース活用開始はもう少し先になりそうです。

活用にこぎつけるまでの手段として、それぞれ補助金活用、自団体の予算を使うなどで、コンサルティングを受ける準備が進んでおり、今後の活用開始への道筋はついていきます。

②課題解決力 Up について

自団体のミッションに立ち返って課題の分析と今後どのような活動が必要かの検討

データベースを活用する場合、団体運営のどの部分でどのように扱うのか

上記2点については、参加団体がすべて研修を機会に検討・整理ができました。

この点は、データベースのみならず、今後の団体運営全般に役立つ成果と考えます。

③新しいネットワークについて

本研修の実施によって、受講者・講師・アドバイザーとの間に新しいネットワークが生まれました。参加者が最終日に「2017 データベース研修組」という Facebook ページを作成してくれたので今後活用していきたいと考えます。

([https://www.facebook.com/2017 データベース研修組-266926390459715/?fref=ts](https://www.facebook.com/2017データベース研修組-266926390459715/?fref=ts))

また最終日にアドバイザーから参加団体と他の中間支援組織・行政等をつなぐアドバイスも複数あり、今後の新しいネットワークにつながると期待しています。

今後の課題について

データベースの活用方法のインプットの段階で、学ぶ量が多く時間が限られているので、どんどん進んでいきました。

一旦立ち止まるとそのままわからなくなるという状況が起こります。

細かい単位で区切って全員が理解しているかどうかを確認できるといいですが、時間に限りがありました。

データベースに少しでも携わったことがある人と、まったく初めての人では当然のことながら理解度に差があります。今回と同じ研修をもう一度受講したら、2 度目はもっとスムーズに進めるだろう、という声もありました。

対策として、インプット段階の情報量を必要最小限に調整する、あるいは同じ研修を数回開催し、理解度に応じて複数回受講できるようにする、ということを検討いたします。

以上